

連載
第3回

地域金融の未来

金融機関・経営者・認定支援機関による価値共創

一般社団法人日本金融人材育成協会 会長 森 俊彦氏



中同協第四十回中小企業憲章・条例推進本部と政策委員会合同会議では、「地域金融の未来」金融機関・経営者・認定支援機関による価値共創」と題して、森俊彦・一般社団法人日本金融人材育成協会会長が報告しました。その内容を三号連続で紹介いたします。

伴走支援型融資

伴走支援型融資とは具体的にどういふことなのかポイントを説明します。「専用当座貸越」と「業績連動型資本性ローン」で企業の財務を支え、それに加え「本業支援」を行い

来CFの改善を支えます。本業を金融機関が支援するとは、たとえば販売先や仕入れ先の紹介や協力企業との紹介など、事業を理解した上で金融機関が関わっていくことです。キャッシュを生む力ができれば、いまコロナ禍で過剰債務になって

いる企業にも返す力がつきます。まず専用当座貸越は、例えば極度枠が一千万円だとすると、その中で出し入れが自由ですから自己資本として機能します。そして、金利負担や手間・コストが削減されます。手形や証書

貸し付けでは印紙税が数万円に上りますが、専用当座貸越では二百円です。ポイントとしては、レシーブ(貸越請求書)を切る都度、仕入れ明細を付けること、かつ、販売して売上債権がキャッシュ化するとき

の是正にもつながります。それから業績連動型資本性ローンは、「いまは大変な時期なので金利はゼロでいいですよ、顧問税理士と金融機関で伴走して応援し、キャッシュフローが持続的に改善したらそれを三者で分かち合います」というものです。政府が多くの予算を付けて、債務超過になっている社長を支援するようになっていきます。

専用当座貸越と業績連動型資本性ローンによって財務を支援することで社長は本業に集中できますから、金融機関が販売先の紹介などの本業支援をして稼ぐ力をつけていく。経営者の皆さんが専用当座貸越や業績連動型資本性ローンを理解して、フル活用することをぜひお願いします。

商工中金は、TKC全国会提携商品「対話型当座貸越(無保証)」の取り扱いを開始していますが、これこそが専用当座貸越です。二〇一八年十一月から商品化して、北海道から沖縄まで全国の商工中金の営業店で、この専用当座貸越を中小企業に提供しています。

政府は助成金や補助金の電子申請を一気に進めようとしています。その際、「ミラサポ plus」はフル活用してください。①情報の再入力が必要、②事業者ごとに最適な支援制度を提示する、③ローカルベンチマークを掲載しているなどの利点があります。(図2)

伴走支援型融資

各機関独自の支援策
事業性評価
地域経済施策
中小企業施策
地域金融施策

対話の先の施策

補助金・助成金の申請にはローカルベンチマーク活用を推奨!

ローカルベンチマーク「入口」

対話

ローカル企業

金融機関 支援機関
政府・地公体

図1 ローカルベンチマークのイメージ

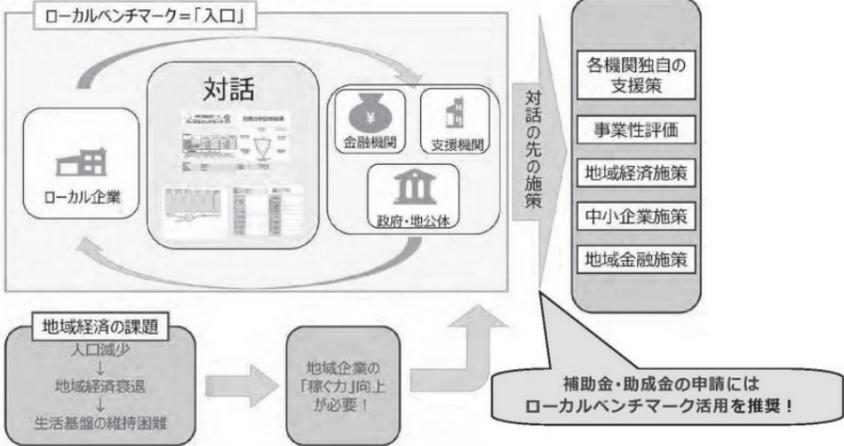
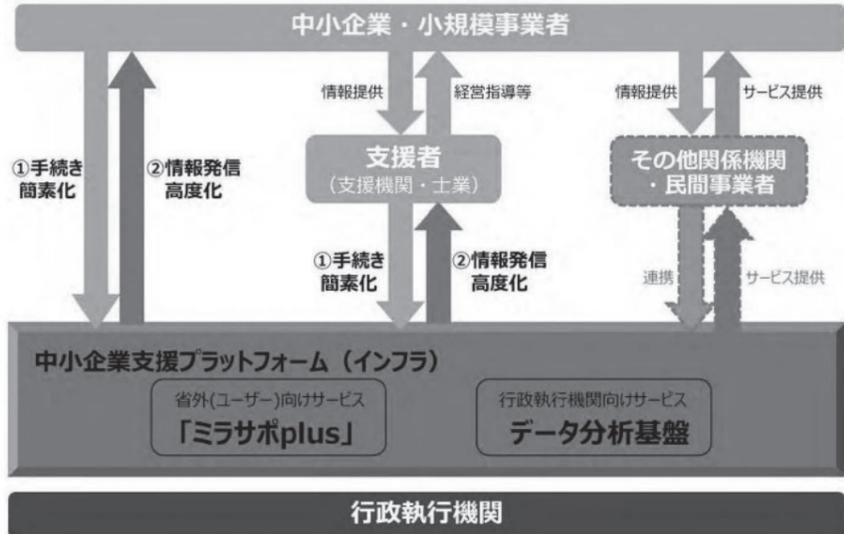


図2 中小企業向け補助金・総合支援サイト「ミラサポ plus」



①手続き簡素化
②情報発信高度化

経営指針を「見える化するツールの活用を

「ローカルベンチマーク」

活用することによって、自らの事業が可視化でき、金融機関やバイヤーに「見える化」することができま

政府は助成金や補助金の電子申請を一気に進めようとしています。その際、「ミラサポ plus」はフル活用してください。①情報の再入力が必要、②事業者ごとに最適な支援制度を提示する、③ローカルベンチマークを掲載しているなどの利点があります。(図2)

<プロフィール>

森俊彦 (もりとしひこ) 氏

1979年東京大学経済学部卒、同年日本銀行入行、信用機構局参事役、金融機構局審議役などを経て、2011年金融高度化センター長。中小機構中小企業応援士、商工中金アドバイザー、きらやか銀行取締役、マネジメントパートナーズ経営顧問に就任。(政府委員)経済産業省「ローカルベンチマーク活用戦略会議」委員、環境省「ESG金融ハイレベルパネル」委員、金融庁「金融仲介の改善に向けた検討会議」メンバーなど著書『地域金融の未来』(中央経済社)

ていく際に、不可欠とも言える「経営デザインシート」を、一番使いやすい立場に立っているのが同友会のみなさんです。コロナに打ち勝ち明るい未来を手にしていくには、同友会のみならず、志の高さと学びの力を遺憾なく発揮して、ローカルベンチマークと経営デザインシートをフル活用していくことを期待しています。共に明るい未来を切り拓いていきましょう。